立命館大学大学院
2023年度実施　入学試験
博士課程前期課程
政策科学研究科
政策科学専攻

入試方式	実施月	小論文	
		ページ	備考
一般入学試験 （日本語基準）	7月（2023年9月入学）	P.1～	社会人入試と共通
	7月（2024年4月入学）	P.1～	社会人入試と共通
	9月	P.3～	
	2月	P.5～	社会人入試と共通
一般入学試験 （英語基準）	7月（2023年9月入学）		
	7月（2024年4月入学）		
	9月		
	12月		
社会人入学試験	7月（2023年9月入学）	P.1～	一般入試(日本語基準)と共通
	2月	P.5～	一般入試(日本語基準)と共通
外国人留学生入試 （特別相互推薦・日本語基準）	7月（2023年9月入学）		
	9月		
	12月		
学内進学入学試験	7月（2023年9月入学）		
	7月（2024年4月入学）		
	9月		
	2月		
飛び級入学試験	7月（2023年9月入学）		
	2月		

【表紙の見方】
×・・・入学試験の実施がなかった等の理由で入学試験問題の作成がなかったもの、または、問題を公開しないもの
斜線・・・学科試験（筆記試験）を実施しないもの

立命館大学大学院
2023年度実施　入学試験
博士課程後期課程
政策科学研究科
政策科学専攻

入試方式	実施月	試験科目	ページ	備考
一般入学試験 （日本語基準）	7月 （2023年9月入学）	英語	×	
		日本語	×	
	2月	英語	×	
		日本語	×	
一般入学試験 （英語基準）	7月 （2023年9月入学）			
	12月			
社会人入学試験	7月 （2023年9月入学）	英語		
		日本語	×	
	2月	英語		
		日本語	×	
外国人留学生入学試験 （海外推薦）	7月 （2023年9月入学）			

【表紙の見方】
×・・・入学試験の実施がなかった等の理由で入学試験問題の作成がなかったもの、または、問題を公開しないもの
斜線・・・学科試験（筆記試験）を実施しないもの

2023 年度大学院入学試験＜2023 年 7 月 1 日実施＞

政策科学研究科前期課程　入学試験問題

筆記(小論文)試験

＜一般入試＞

試験時間　10 時 30 分　～　11 時 10 分
(途中退室はできません)

- 持ち込み許可物件はありません。
- 問題は試験終了後に回収します。

次の文章は、日本における高校国語教育改革に関する論説の一部である。国語教育＝言葉を使う営みの学習について、どのような特徴的な考え方をもっているのかをまとめ、それについて論評しなさい。

山崎正和氏　1934年、京都生まれ。日本芸術院会員。大阪大学教授、東亜大学学長、中央教育審議会会長、サントリー文化財団副理事長などを歴任。2018年に文化勲章を受章。

言葉は、本質的に1対1の伝達ではなく、当の相手のほかに第三の傍聴者を予定している。直接に声の届く範囲を超えて、誰が立ち聴いても分かることを理念的な目標としている。かねて私はこれを「対話」に対する「鼎話」活動と呼んできたが、言いかえれば言葉はただの発信ではなく、話者と複数の相手との共同体を作る営みなのである。

だからこそ、世間では相手の見えない書き言葉が重視され、書き言葉は無限定な相手に向けて、あたかも独り言のように書かれる。もし誤解が生じれば責任の大半は発信者が取ることになる。また、共同体の維持を目的とすればこそ、全体に通じる「正しい言葉」を使うという観念も生まれ、各個人もその言葉に従って、感じたり考えたりし始めるのである。

これだけの原則を前提とした上で、しかも文部科学省の真意も忖度しながら、今、どのような国語教育改革が提案できるだろうか。近来の動向から察するところ、文科省の本意は、実社会の役に立つ国語教育を目指す、という点にあるとみられる。文豪の高尚な叙情や哲学ではなく、簡明で実用的な文章を教えたいということではないだろうか。それなりに肯けない話でもないので、だとすれば私も言葉を業とする身の責任感から、ここで二つの実現可能な方策を提案してみようと考えた。

第一は、昔、福沢諭吉が慶応義塾の生徒に教えたこと、文章でものごとを描写させる訓練である。福沢はどこにでもある人力車を取り上げ、それを見たことのない人に分かるように文章で描けと命じた。そこには情緒も哲学も入る余地はなく、ひたすら即物的で、しかし多様な語彙の柔軟な駆使が求められる。

私はこれを現代の高校に導入するのは効果的であって、極めて容易であると考える。たとえば教室を二つに分けて、一方に風景や事物を言葉で描かせ、他方にそれを読ませて絵に再現させる。その上で両者に結果を比べさせて、異同を討論させるのである。

教師の仕事は、語彙不足の生徒に助言をすること、最後の討論の司会をすることのほかに多くはない。一方の生徒の言葉が他方にどれだけ通じたかを計るとともに、作文力と読解力を同じ場所で同時に比較することによって、成績判定もこれまで以上に客観性を帯びるだろう。

もう一つ勧めたいのは、長い文章を要約する練習である。対象の描写が言葉による観察の力を高めるとすれば、長文要約は人の考える力が言葉を通じてどのように働くかを教える。ただの思いつきを言い捨てるのとは違って、共同体の共感と同意を得るために、人はどんな順序で考えを進めなければならないかについて教える。結論の出し方によって逆に導入部の入り方が決まり、中間部の山の高さは全文の終わり方によって変わる、といった文章の妙味を、生徒はこの勉強から学ぶだろう。

この場合も教室で必要なのは、課題文に対する性急な批判や評価ではなく、もっぱら正確な読解と要約だけである。もちろん教材は慎重に選ばねばならないが、目標はあくまでも国語力の向上にあって、生徒の自己顕示欲の刺激にはないことを忘れてはならない。その上で、ここでも生徒同士の相互比較、要約の示し合いと討論を奨励すれば、教師の負担増なしに教育効果は上がるだろう。

二つの教授方法を提案したが、どちらにとっても不可欠なのは本を読むことである。国語は「読む、書く、話す」の3要素から成ると言われるが、最も重要なのは比較の余地なく読むことである。理由は、乳児のむずかりから最も遠いのが読むことだからと言っておこう。発信は言葉がなくてもかろうじて可能だが、読み解いて理解することは言葉の独擅場である。

国民の読書量が激減していると言われる現代、せめて高校生には教科書以外の本を年に30冊、3年間で100冊を読むことを奨励することが、公教育の責務ではなかろうか。

英文はあすのジャパン・ニューズに掲載する予定です

出典：山崎正和「地球を読む」（読売新聞　2020年4月20日）

2023 年度大学院入学試験＜2023 年 9 月 9 日実施＞

政策科学研究科前期課程　入学試験問題

筆記(小論文)試験

＜一般入試＞

試験時間　10 時 30 分　～　11 時 10 分
(途中退室はできません)

- 持ち込み許可物件はありません。
- 問題は試験終了後に回収します。

以下の文章を読み、次の問いに答えよ。

「あなたは、デメーニ投票に賛成か反対か。理由も示しながら、あなたの見解を論じてください。」

少子高齢化の進行で、日本を始めとする先進諸国では選挙における世代間格差が問題となっています。高齢者が有権者の人口に占める割合が大きいと、高齢者向けの政策が優先される「シルバー民主主義」と呼ばれる状態になります。こうなると、特に子育て世代への福祉が手薄になり、さらに少子化に拍車をかけます。

実はこの問題は、「もっと若者が選挙に行けば解決する」といった単純な話ではないのです。2020 年の統計によると、日本で選挙権を持つ人口は約 1 億 400 万人です。この中で、18 歳から 29 歳までを合わせた人口は約 1400 万人と、全体の約 13%にすぎません。一方、65 歳以上の高齢者は約 3600 万人と全体の 34%を占めています。さらに、有権者の平均年齢(中位年齢と言われ、選挙公約で重要なターゲットになります)はなんと約 52 歳です （なお、若い世代の投票率の低さを考慮すると、実際に投票を行なった人の平均はさらに上昇し、50 代後半となります。)。 つまり、若者の投票率が 100%だったとしても、全体に占める割合は小さく、その意味では「若者を優遇する政策」が優先されることはないのです。 〜略〜

人間は残念ながら若返ることができないので、自分よりも上の世代が優遇されることには寛容(いつか自分もその世代を経験する）ですが、 自分より下の世代が優遇されることには反発しがちです（自分が恩恵を受けることができない)。さらに、若い有権者世代より下の年齢（17 歳以下）の国民には選挙権が無いので、政治家には彼らが 18 歳になったときに得をする政策を提示するメリットが少ないのです。その結果、若い世代の低所得化、晩婚化・未婚化が進み、出生率が低下する事態となっています。

こうなってしまうと、将来の世代の人数が減り、さらにこの傾向に拍車がかかるという悪循環に陥ります。ここでは、「将来の世代を代表する人がルール決めに参加できていない」ということが、1 つの問題となっています。

諸外国では、これを是正するためにさまざまな対策が検討されています。例えば、ドイツやハンガリーで検討された「デメーニ投票」という投票方法があります。これは、18 歳未満の子供にも選挙権を付与し、その選挙権を親が行使できるようにするというものです。これによって、若者世代にとって有利になる政策を推進することができるのではないかというアイディアでした。ちなみに、同様の制度は日本でも「ゼロ歳選挙権」として注目を集めたことがあります。

出典 ：江崎貴裕（2022)『数理モデル思考で紐解く RULE DESIGS—組織と人の行動を科学する』ソシム 123〜125 頁　脚注は省略

2024 年度大学院入学試験＜2024 年 2 月 10 日実施＞

政策科学研究科前期課程　入学試験問題

筆記(小論文)試験

＜一般入試＞

試験時間　10 時 30 分　～　11 時 10 分
(途中退室はできません)

- 持ち込み許可物件はありません。
- 問題は試験終了後に回収します。

以下の新聞記事を読み、次の問いに答えよ。

「国内で足による投票を行う者が増えれば増えるほど、国民全体の福祉・幸福の総和も増加するか。逆に減少するか。具体的な理由を示しながら、あなたの見解を論じてください。」

競争加速、値下げの時代

「足による投票」住民らが選別へ

東京の品川区役所では、都外の住民から保育園に関する問い合わせが絶えない。「品川はサービスが手厚いらしい」というううわさが浸透しているためだ。

きっかけは五年前に公立認可保育園で初めて、午後十時までの延長保育を打ち出したこと。夫婦共働き世帯の要望に合致し、入園希望者が急増した。休日保育や一時保育なども実施し、今年六月には保育と教育の両機能を併せ持つ施設も誕生した。

「住民に（品川を）選んでもらっているという実感は確かにある」（金子正博・区保育課長）。事実、バブル経済の崩壊で一時流出したファミリー世帯が回帰し、区の人口は二十三区平均を上回る増加が続いている。

周辺区も子育て支援策を充実し、現在では品川が突出しているわけではないが、一度、口コミで広がったイメージは今も品川の優位性を支えている。

群馬県太田市が来年四月に開校する小中高一貫校「ぐんま国際アカデミー」。国語など一部教科を除いて授業をすべて英語で行う教育方針が評価され、入学予定者約百六十人の半分は市外、四分の一は県外の住民が占める。

入学に合わせて太田市民になる人も多く、なかには母親と子供が太田に転居し、父親だけが仕事の関係で神奈川に残るという「逆単身赴任族」も生まれる。同市は公立校での少人数指導にも積極的で、今回の調査でも「教育」部門を中心に順位を大幅に上げた。

米国の経済学者であるチャールズ・ティボーが唱えた「足による投票」という理論がある。住民や企業が自分にとって好ましいサービスを提供する自治体を選ぶことで人口移動が生まれ、その結果、自治体間に競争メカニズムが発生するという仮説だ。

「延長保育が充実している街を選ぶ」などは「足による投票」の典型例だろう。地方分権や規制緩和で、自治体が個性を競う環境がようやく整い始めた。

これまでは極めて少なかった公共料金の値下げも広がり始めた。今回の調査結果をみると、水道料金を下げた地域が昨年度は七市、今年度は八市ある。四月から平均五％強引き下げた山口市は「減収分は外部委託や人員削減で吸収する」（水道局）と話す。

サービス向上やコスト削減は横並び意識が強くては進まない。横並びを強いてきたのがほかならぬ国の補助金を通じた縛りだ。

自治体が創意工夫を凝らして、住民が望むサービスを競う流れを加速できるのか。三位一体改革（国と地方の税財政改革）の成否が当面のカギになる。

（地方部　谷隆徳）

分野別の上位都市

〈子育て環境〉……80点満点

1	三鷹	市（東京）	54.0
2	大田	区（東京）	52.5
2	富山	市（富山）	52.5
4	武蔵野	市（東京）	52.0
4	秦野	市（神奈川）	52.0
4	高岡	市（富山）	52.0

〈高齢者福祉〉……60点満点

1	青梅	市（東京）	39.0
2	吉川	市（埼玉）	38.0
2	旭	市（千葉）	38.0
2	清瀬	市（東京）	38.0
2	島原	市（長崎）	38.0

〈教育〉……70点満点

1	浦安	市（千葉）	46.5
2	袖ケ浦	市（千葉）	45.5
3	原町	市（福島）	42.5
3	渋川	市（群馬）	42.5
5	魚津	市（富山）	41.5

〈公共料金〉……40点満点

1	戸田	市（埼玉）	28.0
1	朝霞	市（埼玉）	28.0
3	日光	市（栃木）	27.0
3	飯能	市（埼玉）	27.0
3	上福岡	市（埼玉）	27.0
3	鶴ケ島	市（埼玉）	27.0
3	昭島	市（東京）	27.0
3	羽村	市（東京）	27.0
3	一宮	市（愛知）	27.0
3	刈谷	市（愛知）	27.0
3	小牧	市（愛知）	27.0
3	西条	市（愛媛）	27.0
3	古賀	市（福岡）	27.0

〈住宅・インフラ〉50点満点

1	歌志内	市（北海道）	33.0
2	夕張	市（北海道）	31.0
3	赤平	市（北海道）	30.0
3	三笠	市（北海道）	30.0
3	千代田	区（東京）	30.0
3	武蔵村山	市（東京）	30.0
3	尾張旭	市（愛知）	30.0
3	宮津	市（京都）	30.0
3	大阪	市（大阪）	30.0
3	赤穂	市（兵庫）	30.0

総合評価の上位都市（300点満点）

（順位のカッコ内は前回調査順位）

順位	自治体名	得点
12（43）	大野町（長野）	169.0
13（108）	朝霞市（埼玉）	168.5
14（9）	調布市（東京）	168.0
15（34）	狭山市（埼玉）	167.5
16（3）	羽村市（東京）	167.0
16（108）	敦賀市（福井）	167.0
16（92）	神戸市（兵庫）	167.0
19（24）	加須市（埼玉）	166.5
19（92）	上福岡市（埼玉）	166.5
19（9）	府中市（東京）	166.5
22（125）	鹿児島市（鹿児島）	166.0
23（9）	世田谷区（東京）	165.5
24（34）	足利市（栃木）	165.0
24（15）	深谷市（埼玉）	165.0
24（108）	品川区（東京）	165.0
24（19）	板橋区（東京）	165.0
24（267）	岡谷市（長野）	165.0
29（267）	つくば市（茨城）	164.5
29（92）	渋川市（群馬）	164.5
29（3）	刈谷市（愛知）	164.5
29（19）	豊田市（愛知）	164.5
33（6）	福生市（東京）	164.0
33（24）	武蔵村山市（東京）	164.0
33（125）	甲府市（山梨）	164.0
33（92）	大阪市（大阪）	164.0
37（267）	原町市（福島）	163.5
37（58）	狛江市（東京）	163.5
37（125）	名古屋市（愛知）	163.5
37（375）	長浜市（滋賀）	163.5
41（61）	川越市（埼玉）	163.0
41（198）	行田市（埼玉）	163.0
41（108）	高岡市（富山）	163.0
44（75）	佐野市（栃木）	162.5
44（58）	渋谷区（東京）	162.5
44（289）	中野区（東京）	162.5
44（92）	豊明市（愛知）	162.5
48（24）	秩父市（埼玉）	162.0
48（9）	文京区（東京）	162.0
48（125）	青梅市（東京）	162.0
48（243）	尾張旭市（愛知）	162.0
52（222）	仙台市（宮城）	161.5
52（19）	江戸川区（東京）	161.5
52（43）	豊橋市（愛知）	161.5
52（222）	碧南市（愛知）	161.5
52（482）	松山市（愛媛）	161.5
57（77）	鴻巣市（埼玉）	161.0
57（24）	市川市（千葉）	161.0
57（34）	北区（東京）	161.0
57（23）	関市（岐阜）	161.0
61（92）	新宿区（東京）	160.5
61（8）	稲城市（東京）	160.5
61（43）	川崎市（神奈川）	160.5
61（242）	高山市（岐阜）	160.5
61（149）	八尾市（大阪）	160.5
61（13）	九州市（福岡）	160.5
67（172）	北九州市（福岡）	160.0
67（222）	真岡市（栃木）	160.0
67（43）	袖ケ浦市（千葉）	160.0
67（77）	立川市（東京）	160.0
67（91）	小金井市（東京）	160.0
67（243）	東村山市（東京）	160.0
67（222）	一宮市（愛知）	160.0
67（403）	池田市（大阪）	160.0
67（458）	生駒市（奈良）	160.0
67（311）	和歌山市（和歌山）	160.0
77（267）	岡山市（岡山）	159.5
77（172）	前橋市（群馬）	159.5
77（125）	高崎市（群馬）	159.5
77（243）	富田林市（大阪）	159.5

出典: 日本経済新聞 2004 年 11 月 1 日朝刊 28 頁